明治学院大学言語文化研究所主催
アンヌ・フーコー氏講演会

# 他者／住まい／ミュージアム
# ――文脈のなかの
# アンドレ・ブルトン・コレクション

## L'autre, la maison, le musée:
## la collection d'André Breton en contexte

---

6月4日（木）18：00-20：00
明治学院大学白金校舎
2201教室※日本語通訳なし

参加無料、申し込み不要。
どなたでもご参加いただけます！

詳細は裏面へ

# INTRODUCTION

シュルレアリスム運動の中心人物アンドレ・ブルトン (1896–1966) は、パリ、フォンテーヌ通り 42 番地のアパルトマンで、詩や小説を生み出すと同時に、書物や美術作品、多様なオブジェに囲まれた独自の「世界」を築いていた。死後、その膨大なコレクションは散逸したが、2000 年のポンピドゥー・センター再開館に際し、アトリエの配置を再現した展示「ブルトンの〈壁〉」が公開された。この「壁」は異質なものの並置による「偶然の接近」というシュルレアリスムの美学を体現する象徴的存在である。本講演では、同館研究者アンヌ・フーコーが、この〈壁〉を手がかりに、ブルトンと非西洋美術、とりわけオセアニアやアメリカ大陸の造形との関係を読み解く。

# PROFILE

アンヌ・フーコー（Anne Foucault）

フランスの美術史研究者。シュルレアリスムを主軸に、20 世紀美術・文学・政治の関係を横断的に研究する。主著『忘却されたシュルレアリスムの歴史』（2022）では、周縁化されてきた画家や実践に光を当て、運動の多層的な姿を描き出した。現在はポンピドゥー・センター（フランス国立近代美術館）所属。ブルトンのコレクションについての初の本格的研究『アンドレ・ブルトンのアトリエ——壁世界』（2024）を共著で刊行し、思想史・視覚文化史の視点から国際的評価を得ている。

---

お問い合わせ先：明治学院大学言語文化研究所
gengo@ltr.meijigakuin.ac.jp